



「東日本大震災」支援・被災地訪問

■全日本中学校長会役員が被災地訪問

令和元年7月29日(月)から7月30日(火)にかけ、全日本中学校長会役員による東日本大震災被災3県(岩手、宮城、福島)への訪問がありました。

本県には29日(月)に川越豊彦会長、佐藤浩東日本大震災支援委員会委員長、富士道正尋事務局次長の3名が来県しました。今年度は気仙地区を訪問地区とし、気仙地区校長会の案内のもと学校訪問と意見交換・情報交換が行われました。

北上駅から大船渡市までの車中では昨年度の校長研究大会宮古大会の際に上映されたVTRや前回岩手で開催された東北地区中学校長会研究協議会の際に上映したVTRを使い、小野寺会長、佐藤副会長から現在の状況についての説明を行いました。

大船渡市では、新たに整備された魚市場の展望デッキから大船渡湾の情景を眺めながら、以前の街並みの様子を含め震災当時の状況とその後の復興までの歩みにつ

いて気仙地区校長会の松高正俊会長(大船渡市立第一中学校長)から説明をお聞きしました。



展望デッキで説明を聞く様子

その後、大船渡市立赤崎中学校を訪問し、菅生裕之校長から、震災時の大船渡市の状況の説明と当時ご自身が勤務していた陸前高田市立広田中学校(現在の高田東中学校)での取組の紹介があり、質疑の後、新校舎の見学を行いました。

次に、陸前高田市へ移動し、奇跡の一本松を眺めた後、陸前高田市立高田第一中学校において気仙地区校長会の松高会長の司会で意見交換会を開催しました。最初に会場校の熊谷広克校長から順に、気仙地区校長会の各校長から自校の現在の状況と生徒の取組の様子について説明があり、続いて、震災当時高田第一中学校の教務主任を務めていた大船渡市立越喜来中学校の岩崎弘校長が当時の学校の様子や状況についてスライドをもとに説明を行いました。



意見交換会の様子

その後行われた意見交換会では、全日中の会長から「風化という課題についてどのように取り組んでいるのか」という質問があり、3.11集会の紹介など各校の取組や、卒業生や地域の方を招いて学ぶ機会の設定など、当時まだ幼かった子どもたちが中学生になっている現状を踏まえ今の状況にあった工夫をしながら復興や防災の教育を継続していることが報告されました。また、地区校長会からは「心のケアやサポートは依然欠くことができず、その重要性は高く、スクールカウンセラー等の更なる充実や継続が今後も必要」との意見が出され、国等への働きかけの協力を全日中にお願しました。

震災から8年経った今の状況を直接見ていただき、被災地区の校長の声に耳を傾けていただく貴重な機会となりました。

【佐藤副会長日記(ラグビー日本代表テストマッチ)】

7月27日(土)、ラグビーワールドカップの日本代表のテストマッチが釜石市の鶴住居復興スタジアムで開催されました。当日、県中学校長会を代表して佐藤玄壺副会長が訪問し、炎天下の中、地元の方々や応援に駆け付けた校長先生方と共に、本戦での日本代表の活躍と震災からの一刻も早い復興を祈念して大きな声で声援を送ってきました。

